

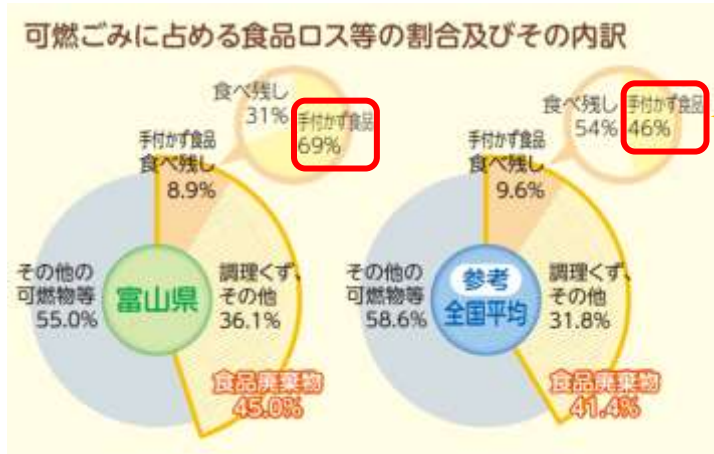
備蓄食品と食品ロス

食品ロスとは、本来食べられるにもかかわらず捨てられている食品をいいます。賞味期限の迫った防災備蓄食品の入替えに伴う廃棄により、食品ロスが生じてしまいます。

世界では、およそ9人に1人が栄養不足の状態にあると言われていたなか、防災備蓄食品とはいえ、安易に廃棄するのは望ましくありません。

賞味期限の近い防災備蓄食品を有効活用する取組みとして、まずは、防災食品の賞味期限を把握することから始めてみましょう。

期限の迫ったものは家庭内で消費するほか、下記に紹介する「ローリングストック」でも、食品ロスを削減することができます。



富山県は全国に比べて「手付かず食品」の廃棄割合が高いです。備蓄の廃棄による手付かず食品のロスを減らしましょう。

出典：富山県食品ロス削減推進計画ハンドブック（調査期間：平成28～29年度）

ローリングストックとは

普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法をローリングストックと言います。

ローリングストックのポイントは、**日常生活で消費しながら備蓄**することです。食料等を一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、**食品ロスを減らしつつ、いざという時に備えることができます。**



富山県気候変動適応センター Newsletter ニュースレター

第6号



台風シーズン到来、災害に備えよう！

8月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなります。台風は接近・上陸時だけでなく、遠方にあつたり、温帯低気圧に変化した後でも、大雨や暴風、高潮などに注意が必要です。

また、最近では同じ場所に次々と発達した雨雲により(線状降水帯の発生)、非常に激しく雨が降り続くことで、洪水や土砂災害が毎年のように発生しており、気候変動の影響により今後さらに増えていくことも懸念されます。

今回のニュースレター(第6号)では、こうした自然災害から自分の命を守るため、各家庭で取り組める対策について紹介します。

自然災害への備え

家具の置き方を工夫

- ・家具が転倒しないよう壁に固定
- ・寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かない
- ・なるべく背の低い家具にし、向きや配置を工夫
- ・手の届くところに、懐中電灯やスリッパなどを備える



非常用持出しバッグの準備

○非常用持出しバッグの中身

- ・飲料水、食料品（カップめん、缶詰、チョコレートなど）
- ・貴重品（預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など）
- ・救急用品（ばんそうこう、消毒液、常備薬など）
- ・ヘルメット、マスク、軍手
- ・懐中電灯、ラジオ、電池、充電器
- ・衣類、下着、毛布、タオル
- ・洗面用具、カイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ など



避難場所・経路の確認

いざ災害が起きた時にあわてずに避難するためにも、お住まいの自治体のホームページや国土交通省ハザードマップポータルサイトなどから防災マップやハザードマップを入手し、避難場所、避難経路を事前に確認しておきましょう！

家庭で取り組む5つの災害対策

食料・飲料などの備蓄

災害発生から72時間（3日間）を過ぎると生存率が著しく下がってしまうため、災害発生から3日間は人命救助が最優先になります。道路の復旧や避難所への物資輸送はその後になるので、まずこの3日間を自力で乗り越えられるよう準備しましょう。

○備蓄品例

- ・飲料水 3日分（1人1日3リットルが目安）
- ・非常食 3日分（ご飯、板チョコ、乾パンなど）
- ・トイレットペーパー、マッチ、カセットコンロ など

※ 飲料水とは別に、トイレを流したりするための生活用水も必要



安否確認方法の確認

安否確認の方法や集合場所などを、事前に話し合っておきましょう。災害時には、携帯電話の回線がつながりにくくなり、連絡がとれない場合もあります。その際には以下のサービスを利用しましょう。

○災害用伝言ダイヤル

局番なしの「171」に電話をかけると伝言を録音でき、自分の電話番号を知っている家族などが、伝言を再生できます。

○災害用伝言板

携帯電話やPHSからインターネットサービスを使用して文字情報を登録し、自分の電話番号を知っている家族などが、情報を閲覧できます。



出典：首相官邸HP <<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html>>

洪水ハザードマップが更新されました

近年全国各地で頻発している豪雨災害に対応するため、平成27年度に「水防法」が改正され、「想定し得る最大規模の降雨」を前提とした浸水想定区域（河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域と水深）が公表されました。

これに伴い、各市町村の洪水ハザードマップが更新されているので、お住まいの地域の氾濫時の危険箇所や避難場所を確認し、災害に備えましょう。

従来

50～200年※に1回の洪水
（計画規模洪水）

※ 河川規模により異なる

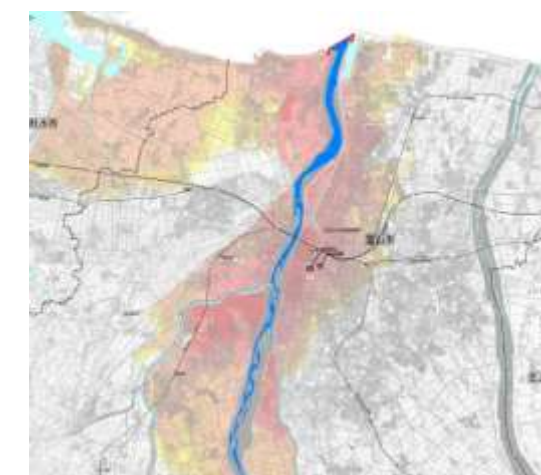


改正

1000年に1回の洪水
（想定最大規模）

浸水深	浸水程度の目安
0～0.5m	床下浸水（大人の膝までつかる）
0.5～1.0m	床上浸水（大人の腰までつかる）
1.0～2.0m	1階の軒下まで浸水する
2.0～5.0m	2階の軒下まで浸水する
5.0m～	2階の屋根以上が浸水する

浸水深と浸水程度の目安



神通川流域の1000年に1回の大雨による浸水想定区域（国交省HPより）